

# Pictet Market Monthly

## 2014年2月のバイオ医薬品市場

2月のバイオ医薬品関連株式市場は、良好な企業業績の発表や業績見通し、治験の進展などが株価の上昇要因となりました。

### バイオ医薬品関連企業の株価動向

2月のナスダック・バイオテック指数(ドルベース、配当含まず)は上昇しました。良好な業績の発表が株価の上昇要因となりました。

業績関連ニュースでは、リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)が強気の業績予想を発表しました。

治験関連ニュースでは、インターミューン(米国)が特発性肺線維症治療薬候補のフェーズ3で良好な結果を発表しました。バイオジェン・アイデック(米国)とアイシス・ファーマシューティカルズ(米国)は脊髄性筋萎縮症治療薬候補のフェーズ2で良好な途中結果を発表しました。シナゲバ・バイオファーマ(米国)はリソソーム酸性リパーゼ(LAL)欠損症治療薬候補と他の新薬候補について良好な内容のアップデートを発表しました。

承認関連ニュースでは、バイオマリン・ファーマシューティカルズ(米国)のモルキオ症候群A型治療薬が米食品医薬品局(FDA)から承認されました。また、バイオジェン・アイデックの多発性硬化症治療薬テクフィデが欧州で承認されました。

### 今後のバイオ医薬品市場見通し

医薬品価格引き下げ圧力の高まりなどのマイナス材料もあるものの、ここ最近の大型医薬品の承認や、有望な新薬のパイプラインの動向から、バイオ医薬品関連企業群は引き続き成長が期待できると考えており、今後数年にわたってヘルスケアセクターを上回る売上成長が期待できると見えています。

こうした成長性に加えて、一般的に期待感が低くなっている中で、良好な治験結果が示されれば、中長期的にはバイオ医薬品関連企業の株価は引き続き上昇基調が期待できると考えます。しかし、ここ最近、バイオ医薬品関連企業の株価は良好なパフォーマンスを続けていることもあり、バリュエーション(投資価値評価)水準は上昇しています。成長への期待感は株価に織り込まれつつあり、今後、今の予想を上回る決算や治験結果を発表することは徐々に難しくなっています。また、予想を下回る決算や治験結果を発表する企業も出てくる可能性も否めないため、注視が必要と考えます。

大型株と中型株を中心に、画期的かつニーズが高く将来性が期待される薬品や、既存薬に無い特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業に注目が集まると考えます。

(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

〈次ページに続きます〉

図表1: バイオ医薬品株価指数  
(ナスダック・バイオテック指数)の推移

	2014年2月28日時点			
	前月比	過去3カ月	過去1年	
ナスダック・バイオテック指数(ドルベース)	7.6%	18.2%	79.4%	
ナスダック・バイオテック指数(円換算ベース)	6.7%	17.6%	97.7%	
ダウ工業株30種平均指数(円換算ベース)	3.0%	1.0%	28.0%	
円/ドルレート	-0.9%	-0.5%	10.2%	
(参考)	当月	前月	3カ月前	1年前
円/ドルレート	101.94	102.86	102.42	92.51
PSR(実績ベース)	9.1	8.7	8.1	5.6

	過去3年	過去5年	過去10年
ナスダック・バイオテック指数(ドルベース)	181.1%	326.7%	254.5%
ナスダック・バイオテック指数(円換算ベース)	250.7%	344.7%	229.7%
ダウ工業株30種平均指数(円換算ベース)	66.5%	140.8%	43.4%
円/ドルレート	24.8%	4.2%	-7.0%
(参考)	3年前	5年前	10年前
円/ドルレート	81.71	97.81	109.62
PSR(倍、実績ベース)	4.5	4.2	10.1

※為替レートは対顧客電信売相場の仲値

※PSR: 株価売上高倍率。2013年12月末時点のナスダック・バイオテック指数構成銘柄を基に算出

出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考情報であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

**図表2: ナスダック・バイオテック指数**  
(米ドルベース、月次、期間: 2004年2月～2014年2月)



出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

**図表3: 今後のバイオ関連学会予定**

開催期間	学会名
2014年3月29日～3月31日	米国心臓学会議 (ACC)
2014年4月5日～4月9日	米国がん研究会議 (AACR)
2014年4月26日～5月3日	米国神経学会議 (AAN)
2014年5月23日～5月25日	アジア太平洋骨代謝学会議 (IBMS)
2014年5月30日～6月3日	米国がん治療学会議 (ASCO)
2014年6月11日～6月14日	欧州リウマチ学会議 (EULAR)
2014年6月12日～6月15日	欧州血液学会議 (EHA)
2014年6月13日～6月16日	欧州高血圧学会議 (ESH)
2013年6月13日～6月17日	米国糖尿病学会議 (ADA)
2014年6月21日～6月24日	米国内分泌学会議 (ENDO)

※バイオ関連学会予定に掲載の学会の開催期間は変更、延期、中止されることがあります。

出所: 各種資料を使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

**図表4: 今後製造承認・販売が期待される  
バイオ新薬(ピーク時予想売上高2.5億ドル以上)**

薬品名 会社名	治療対象病名 承認・販売目標
Vimizim	モルキオ症候群A型
バイオマリン・ファーマシューティカルズ	2014年2月承認
イブルチニブ	慢性リンパ性白血病
ファーマサイクリクス	2014年2月承認
タシメルテオン	全盲患者睡眠障害
バンダ・ファーマシューティカルズ	2014年2月承認
ドロキシドパ	症候性神経因性起立性低血圧症
チェルシー・セラピューティクス	2014年2月承認
アプレミラスト	乾癬性関節炎
セルジーン	2014年3月承認
AFFREZA	1/2型糖尿病成人の血糖コントロール
マンカインド	2014年第2四半期
ダルバパンシン	皮膚感染症
デュラータ・セラピューティクス	2014年第2四半期
Omidria	眼炎
オメロス	2014年第2四半期
Zerenex(クエン酸鉄)	慢性腎疾患(CKD)患者の高リン血症
ケリックス・バイオファーマシューティカルズ	2014年第2四半期
Contrave	肥満症
オレキシジェン・セラピューティクス	2014年第2四半期
Tedizolid	急性細菌性皮膚・皮膚組織感染症
キュービスト・ファーマシューティカルズ	2014年第2四半期
Alprolix	血友病B
バイオジェン・アイデック	2014年中旬
Elocate	血友病A
バイオジェン・アイデック	2014年中旬
Plegridy	多発性硬化症
バイオジェン・アイデック	2014年中旬
Zalviso	急性痛自己治療システム
アセルRXファーマシューティカルズ	2014年第3四半期
タバポロール	水虫(爪真菌症)
アナコール・ファーマシューティカルズ	2014年第3四半期
Belinostat	T細胞リンパ腫
スペクトラム・ファーマシューティカルズ	2014年第3四半期
ジアゼパム	てんかんに伴う急性で反復性の発作
アコルダ・セラピューティクス	2014年第3四半期
イデラリシブ	低悪性度非ホジキンリンパ腫
ギリアド・サイエンシズ	2014年第3四半期
AEZS-130	成人成長ホルモン欠損症診断
エテルナ・ゼンタリス	2014年第4四半期
ledipasvirとSofosbuvirの合剤	遺伝子1型慢性C型肝炎
ギリアド・サイエンシズ	2014年第4四半期
ABT-450	C型肝炎
エナンタ・ファーマシューティカルズ	2014年第4四半期

出所: 各種資料を使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考情報であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、記載のデータは、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

〈次ページに続きます〉

## バイオ医薬品関連企業の売上高は相対的に高い伸びが見込まれる

バイオ医薬品関連企業の売上高は、新興国の企業を上回って堅調に成長してきました。(図表5参照)

バイオ医薬品関連企業については、①有望な治療薬候補の良好な治験結果の発表、②大型の新薬の承認、③新薬販売開始後の業績寄与の拡大などを背景に、米国企業や日本企業よりも相対的に高い売上高の伸びが見込まれています。(図表6参照)

## 売上高の伸びに沿って株価も上昇

過去の実績では、バイオ医薬品関連企業の株価は、売上高の伸びとともに上昇してきたことがわかります。

(図表7参照)

## バリュエーション: 上昇傾向にあり

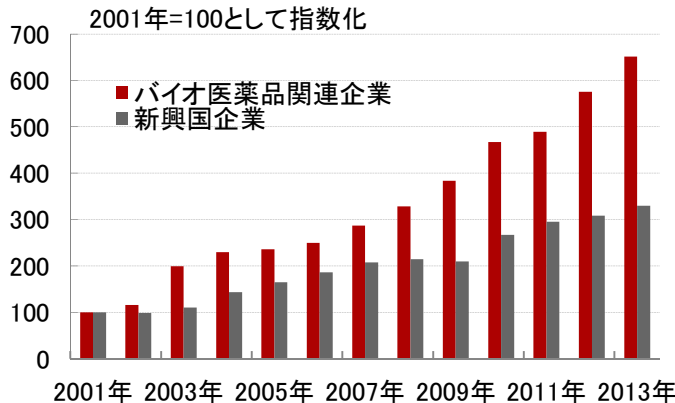
2011年以降、バイオ医薬品関連株式の株価が大きく上昇したことから、PSR(株価売上高倍率)で見たバリュエーション(投資価値評価)は、ここ数年で最も高い水準にあり、一部、割高となっている可能性もあります。

(図表8参照)

(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表5: 売上高の推移

(米ドルベース、期間: 2001年12月末~2013年12月末)



2001年 2003年 2005年 2007年 2009年 2011年 2013年  
 ※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数  
 新興国企業: MSCI新興国株価指数構成銘柄  
 ※売上高は一株あたり売上高(指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出)  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

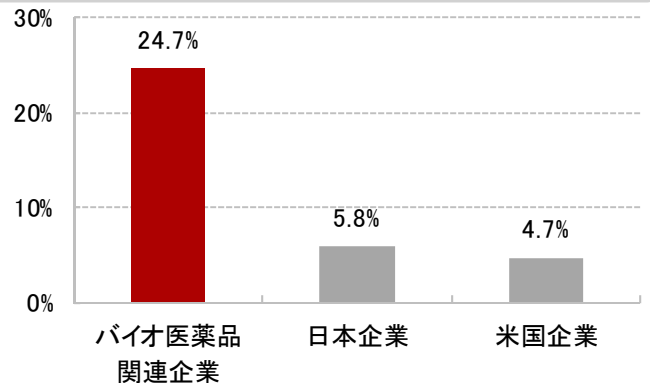
MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

記載のデータは、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

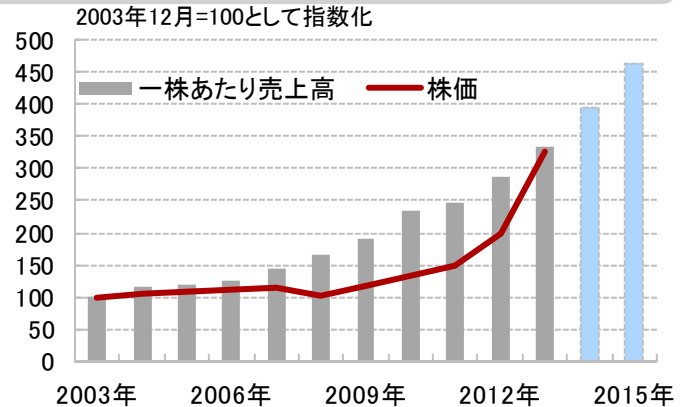
●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資家保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

図表6: 今後1年間の売上高の予想伸び率 (2014年3月26日時点、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均)



※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数、米国企業: S&P500 種株価指数、日本企業: TOPIXの構成銘柄  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

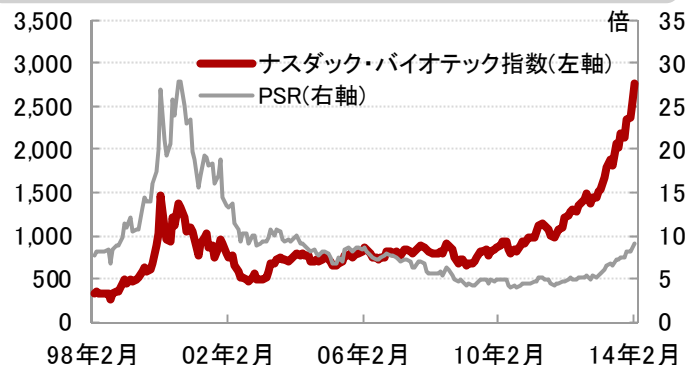
図表7: バイオ医薬品関連企業の売上高と株価の推移 (期間: 2003年12月末~2013年12月末(実績)、2014~2015年(予想))



2003年 2006年 2009年 2012年 2015年  
 ※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数  
 ※一株あたり売上高は、指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出  
 ※2014年、2015年の一株あたり売上高はブルームバーグ集計アナリスト予想平均(2014年3月26日時点)  
 出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表8: ナスダック・バイオテック指数とPSR

(米ドルベース、月次、期間: 1998年2月~2014年2月)



※PSR: 株価売上高倍率。2013年12月末時点のナスダック・バイオテック指数構成銘柄を基に算出 出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成